

校友会活動ビジョン

ビジョン

未来を生みだす、立命のきずな。
応援しよう、個のかがやきを。

行動指針

未来を信じ挑戦し、自らのボーダーを超える。
多様性を認め、楽しく相互に成長できるつながりをつくる。
循環型支援の立命文化を創る。
グローバルシチズンとして、広く社会に貢献する。
立命人としての誇りを持ち、大学の価値向上に寄与する。

りつめい No.288/2022年8月号

発行所/立命館大学校友会/年3回発行

発行人/村上健治

編集人/森川典子

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel.075(813)8216 Fax.075(813)8217

URL:<https://alumni.ritsumeijp/>

E-mail:alumni@st.ritsumeijp

※2022年8月11日(木・祝)～17日(水)は夏期一斉休暇のため事務局を閉局いたします。

ご連絡先の変更はこちらから▶



輝くひと

国連女性機関(UN Women)
ジョージア事務所 代表

石川 かおりさん

('96産社)

| 巻頭特集 |

世界の今と 向き合う

女性や子どもの未来を変える

「私たちの支援によって人々の考え方が変わり、やがて生活が変わっていく。それがうれしい」

国連人口基金(UNFPA)で20年以上にわたって数多くの発展途上国に赴き、支援活動に携わってきた石川かおりさん。とりわけ女性や子どもの人権保障や自立支援に力を尽くしてきた。

高齢者や障がい者の福祉に関心を持ち、大学時代は産業社会学部発達・福祉コース(当時)で学んだ。転機は留学生の生活をサポートするスタッフとして国際寮「I(アイ)ハウス」で生活したことだった。「留学生から発展途上国の女性や子どもへの人権侵害の話聞いて、ショックを受けました。世界にも支援を必要としている多くの人があると知り、開発支援を勉強したくなりました」。卒業後、英国の大学で開発学を学び、オランダの大学で女性学の修士課程を修了。専門性を生かせる道を探し、NGOなどを経て今の仕事をつかんだ。

2016年、国連人口基金(UNFPA)のモンゴル事務所長に就任。2020年に新型コロナウイルスの感染が拡大し、石川さんは多忙を極めた。「家庭内暴力が増え、その防止や被害者支援のために啓蒙活動をしたり、モンゴル政府に働きかけて、コロナ禍で妊婦さんを支援する政策作りを後押ししたり、やらなければならないことはいくつでもありました」。遠隔操作で地方に医療サービスを届けるテレメディシンの拡大もその一つだ。ロックダウンにより妊婦さんが病院に行くことができないため、モンゴル政府にかけあい、地方の助産師さんと病院を遠隔医療でつないだ。「本当に大変でしたが、やりがいのある仕事できてすごく面白かったですね」と充実感をにじませた。もちろんうまくいくことばかりではない。人々の考え方を換え、政策や法律を社会に浸透させるには時間がかかる。それでも取り組んだことが女性や子どもの未来につながっていくと信じ、希望を持って続けている。世界を飛び回る仕事柄、大変なことも多いが、「上司や家族が支えてくれて、私は恵まれています」と感謝の気持ちを忘れない。

2021年8月、志願して国連女性機関(UN Women)ジョージア事務所に向向。女性のエンパワーメントに情熱を傾ける。「世界のため、人のために何かしたいと思っている人は必ずいます。様々な人を巻き込み、一緒に支援していきたい」。世界で支援を必要としている人の存在が石川さんを突き動かしている。



©Leli Blagonravova

国連女性機関(UN Women) ジョージア事務所 代表

いしかわ
石川 かおりさん
('96産社)

輝くひと
118

PROFILE

大阪府出身。1996年に産業社会学部を卒業後、1年間、英国のEast Anglia大学で開発学を学び、1997年からオランダのInternational Institute of Social Studiesの修士課程で女性学を学ぶ。国連人口基金に入ってから、ラオス、イエメン、インドネシア、アフガニスタン、ミャンマーなど10カ国以上の現地事務所に勤務し、20カ国以上を支援。2014年、英国のWarwick大学で経営学修士を取得。2016年、モンゴル事務所長、2021年8月から現職。



巻頭特集

世界の今と向き合う

紛争や災害、病気、貧困など、今なお世界には

人々が自由に幸せに生きることを困難にしている問題が山積している。

それらに解決策を見いだすためには、国や地域に関係なく人々が尊重し合い、

連携・協力することが一層重要になっている。

今回は外交、研究、人道・開発支援などさまざまな活動を通して世界と向き合う校友を紹介する。

撮影：P4-5 岡田 一也

立命館大学校友会報

りつめい AUGUST 2022
No. 288

03 巻頭特集

世界の今と向き合う

02 輝くひと

国連女性機関(UN Women) ジョージア事務所 代表
石川 かおりさん

08 RITSUMEI INTERVIEW

駐モルドバ特命全権大使
片山 芳宏さん

12 立命館の研究者たち

国際関係学部 石川 幸子 教授
「国際紛争から『人間の安全』を守るか?」

14 立命館ファミリー

16 校友会未来人材育成基金

18 オール立命館校友の集い2022予告

19 2022年度 校友会幹事会報告

20 Event Report

21 立命館オンラインセミナーのご案内

22 オンラインでつながる、ひろがる 各校友会のオンラインでの取り組み

Present

アンケートにご協力いただいた方に抽選でプレゼント
をお贈りします!



23 校友会ネットワーク/校友会 TOPICS

24 3.11復興への願い/ 会報と大学・校友会の最新ニュースを メールでお届けします!

25 応援しよう、個のかがやきを。

26 学生の活躍

28 キャンパストピックス

30 INFORMATION 編集室から

掲載内容は2022年6月時点のものです。(一部特記箇所を除く)
デザイン・ディライト広告事務所



「インテリジェンス」が世界を変える。

こたに けん
小谷 賢さん('96国関)

日本大学 危機管理学部 教授

感 染症の世界的な拡大や国際紛争など、人々の安全を脅かすような問題が次々と起きています。日本のインテリジェンス研究をけん引する一人である小谷賢さんは、多くのメディアから専門家としての見解を求められ、忙しい毎日を送っている。国際政治や安全保障において「インテリジェンス」がいかに重要か、社会の認識が高まっている証しといえる。

『インテリジェンス』とは、平たく言えば『情報』のことです。しかし単なるデータではなく、理論的な分析を加え、ある目的にとって価値を持つ情報を『インテリジェンス』と呼びます」と言う。日本の学術界では、近年まであまり注目されてこなかったが、小谷さんは20年以上前に英国の大学でインテリジェンスを学んで以来、研究を続けてきた。

小さい頃からアニメや漫画が好きで、高校時代、一番の愛読書は『ゴルゴ13』だった。「現実の世界情勢や国際政治の内情が描かれていて、そこから外交や情報機関に興味を持ちました」。その気持ちが大きく膨らんだきっかけは、1991年に勃発した湾岸戦争だった。衝撃を受けた小谷さんは「国際政治学を学びたい」と高3になって理系から文系に転向し、開設されて間もない立命館大学国際関係学部に進学した。

入学当初は外交官に憧れ、英語の勉強に力を注いだ。英語研究会(ESS)に入ったこともその一つだ。カナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)への交換留学も決まっていたが、留学前の英語講習を受けるうちに「英語を身に付けても、話すべき『中身』がなければ意味がないと気付いた」という。まずは勉強して知識を身につけることが先決だと思い、留学を辞退。仲間数人と国際政治に関する勉強会を始めた。「ゼミの指導教官でもあった小林誠先生に文献リストを作っていただいて、片っ端から読み、勉強会でも輪読しました。国際政治には、法や取り締まる政府がありません。その中でどうやって秩序を保ち、平和を維持しているのか、それが不思議でした」と小谷さん。「思えば大学では勉強しかなかった」と振り返るほどのめり込んだ。

京都大学で修士課程を終え、英国のロンド

ン大学キングス・カレッジに留学した時、講義でたびたび話題に上る「インテリジェンス」という耳慣れない言葉に興味を引かれた。「幸運だったのは同じ頃、60年間非公開だった極秘のインテリジェンス資料が英国政府から開示されたことです。これまで誰も見たことのない資料を読めると知って、飛びつきました」。中でも小谷さんが注目したのは、暗号解読の記録だった。「第2次世界大戦中、日本が暗号でやり取りした外交文書が全て解読され、記録されていることに驚きました。表向きの歴史の裏でいったい何が起きていたのか、内幕をのぞき見る面白さに夢中になりました」。毎日公文書館に通い、膨大な資料を読むことに没頭。気がつけば1年以上が過ぎていた。

帰国後に京都大学の博士課程を修了し、防衛省防衛研究所に勤務。今度はそこで、誰も開いたことのない日本の機密文書を見つけ出す。「興味深かったのは、日本も英国と同じように情報収集をしていたのに、それを十分活用できなかったことです。情報があってもそれをうまく使えなければ意味がない。インテリジェンスの重要性を再認識しました」

20世紀までの情報収集は、暗号を解読したり、スパイが暗躍したり、秘密裏に行われるものだった。しかし現代は国が故意に偽情報を流したり、反対に戦争の実態を公開して人々に判断を仰ぐなど、情報をオープンにする時代になったという。それはすなわち一人ひとりの情報への向き合い方が問われるということでもある。「インターネットが発達し、入手できる情報量が増えた分『正しい情報』にたどり着くのは非常に難しくなっています。玉石混交の情報の中から価値ある情報を探し出すには、まず自分が何をしたいか、そのためにどんな情報が必要なのかをしっかりと考えることが大切です。目的意識を持って自分から取りにいった情報なら間違いは少ないはずですよ」と語る。

資料の一つひとつ読み込んで誰にも知られていない事柄を見つけ出し、歴史の裏に隠された事実をひもとく。「それが面白い」と研究の醍醐味を語った小谷さん。「誰も手を付けていない分野だからこそ挑みがいがある」と、これからも未踏の地を目指す。

PROFILE

京都府出身。立命館大学卒業後、ロンドン大学キングス・カレッジ大学院修士課程修了、京都大学大学院博士課程修了。防衛省防衛研究所主任研究官などを経て現職。専門は国際政治学、インテリジェンス研究。主な著書に『日本軍のインテリジェンス—なぜ情報が活かされないのか』、『インテリジェンスの世界史—第二次世界大戦からスノーデン事件まで』、『特務(スペシャル・デューティ)—日本のインテリジェンス・コミュニティの歴史』(訳)などがある。2022年夏、新著を上梓予定。



10年、20年後、 生きていける支援を。

かわしま あやか
川島 綾香さん('16国関)

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)
テラ・ルネッサンス
海外事業部 ブルンジ事務所長

東 アフリカの内陸に位置するブルンジ共和国は、長く続いた内戦を経て、今、平和の定着と国家復興の途上にある。認定NPO法人テラ・ルネッサンスの川島綾香さんは、2021年11月からこの国で主にストリートチルドレンを対象に子どもの保護と自立支援を行っている。

国際支援に関心を持つようになったきっかけは高校生の時、世界史の授業でソビエト連邦崩壊後に難民となった人々が困窮するニュース映像を見たことだった。「世界にはこんなにも違う環境で生きている人があるんだと衝撃を受けました」。その後、JICAの元青年海外協力隊員に話を聞く機会があり、海外で人のために働く協力隊にひそかな憧れを抱いた。その気持ちは立命館大学で学ぶうちに確かな決意に変わった。

「国際関係学部には、在学中に留学や、休学して海外に飛び出していく学生がたくさんいました。そうした先輩や同級生に刺激を受け、『自分は何をしたいのか』と真剣に考えました。企業に就職して開発支援に関わる道もあるけれど、それよりは早く現地に行って、何が起きているか自分の目で確かめたいと強く思いました」と語る。授業でNPOやNGOについて学んで興味を持った矢先、学内にあった校友会報「りつめい」で偶然見つけたのが、立命館大学の卒業生でテラ・ルネッサンスの創設者である鬼丸昌也氏の記事だった(※)。鬼丸氏の「ひとり一人に未来をつくる力がある」という理念に深く共感し、同団体でのインターンシップを志望。卒業後も非常勤職員として勤務しながら青年海外協力隊の試験に挑戦した。3度目にして合格を勝ち取り、2018年、アフリカのウガンダ共和国に派遣された。

現地では、住民が安全な水を利用できるよう支援する活動に尽力した。「不便な中でも工夫しながら生活している人たちと接してたくましさを感じる一方で、日本にいた時は考えもしなかった『死』を身近に感じました」と振り返る。2年間の活動中、日本とは異なる社会環境や価値観に触れ、「泣いたこともあるけれど、それ以上に面白かった」と川島さん。実感したのは、日本の常識や自分たちの考えが必ずしも現地の人にとって最善ではないということ

だ。「おかげでいろいろな視点で物事を捉えられるようになりました」と成長を語る。帰国後もアフリカへの思いは変わらず、2021年秋、今度は職員としてテラ・ルネッサンスに採用され、ブルンジ共和国に飛んだ。

現在取り組む「子どもの保護と自立支援プロジェクト」では、年間数十人を受け入れ、洋裁やバイク修理、小規模ビジネスなどの職業訓練を実施し、経済的自立を後押ししている。すぐに「目に見える成果」が出ないことが自立支援の難しいところだ。「災害や戦争直後などには緊急支援が必要とされますが、私たちがブルンジで取り組んでいるのはその後に繋がる支援です。手に職をつけてもらうことで、この先10年、20年、自分でお金を稼いで生きていけるようになることが大事だと考えています」と言う。

とはいえ支援できる人数は限られているという現実にも、もどかしさを感じることもある。そんな時、思い返すのは「誰のためでもなく、私がやりたいからここにいる」ということだ。「自分のしたことで周りの人が幸せになったら、私も幸せになれる。それが私にとっての『生きる意味』ではないかと思うようになりました」

これまでミシンに触ったこともなかった人が職業訓練で洋裁を覚え、洋服を作れるようになっていく。「彼らに『収入を得られるようになったら何がしたい?』と聞くと、皆口をそろえて『家族を助きたい』とうれしそうに言うんです。その顔を見ることが、諦めずに続ける力になっているという。

世界で困窮する人がいることを知っていても、多く人は「自分には何もできない」と思って行動しない。「まずは自分がどうありたいかを真剣に考えてみることです」と川島さん。「私は、同じ世界に苦しんでいる人がいることを知りながら何もしないことが苦しかったから、『自分にできることをしよう』とここに来ました。自分の気持ちに向き合えば、取り組みたいことが見えてくるのではないかと考えています」

今後について尋ねると、「私も自分と向き合い続け、そして理想を決して諦めない」と改めて決意を口にした。その屈託のない笑顔の奥に強い覚悟が見えた。

※校友会報「りつめい」249号



PROFILE

高知県出身。立命館大学国際関係学部在学中に認定NPO法人テラ・ルネッサンスでインターンシップを経験し、卒業後、1年間非常勤職員として勤務。2018年1月から2年間、青年海外協力隊としてウガンダ共和国に赴任。帰国後、民間企業などを経て2021年11月、テラ・ルネッサンスに就職し、ブルンジ共和国に赴任。

国際交流と支援活動に 人生をささげる

駐モルドバ特命全権大使

かたやま よしひろ
片山 芳宏さん ('80 経済)

外務省に入省して40年以上、世界各国に赴任し、
数々の外交場面で活躍してきた片山芳宏さん。
現在は東ヨーロッパのモルドバ共和国に駐在。

国際交流をはじめ、開発支援や人道支援でも大きな役割を果たしている。



高 校卒業まで広島県で育ちました。親元を離れて一人暮らしをしてみたいという気持ちと、京都への憧れから立命館大学への進学を決めました。

大学では経済学を学ぶ一方、中学生の頃から好きだった英語の勉強も続けたいと思い、2回生から「ERS(英語読書研究会)」に所属しました。2回生の後期にキャプテンを任されてからは、サークルを運営する難しさも経験しました。人をまとめることがこんなにも難しいのかと、悩んだことを覚えています。

将来について考え始めたのもちょうどその頃です。学術館の古本市で、外交官試験に関する本が目にとまりました。本には「試験に合格すれば、外交官になれる。語学研修を受けられて、さらに海外で勤務できる」と書いてありました。英語が好きで、「いつか外国に行ってみよう」と思っていた私にとっては、まさに夢のような職業だと思いました。問題は、試験が相当難しいことです。果たして私に合格する力はあるだろうか。悩みに悩んだ末に、国家公務員試験突

破を目指そうと決意。3回生の秋から1年間、必要な授業を受ける以外は早朝から夜遅くまで大学の図書館にこもり、試験勉強に没頭しました。そのかいあって無事合格し、1980年、外務省に入省しました。

ルーマニア語を身に付け、 天皇陛下の通訳を務める

1年余りの本省勤務の後、語学研修に赴いたのは、ルーマニア。日本で話せる人が少ない外国語を身に付け、他の人とは違った言語の専門家になりたいと希望した結果でした。2年間の研修を終えると、ルーマニアの日本大使館に書記官として配属されました。

社会主義国家だった1980年代前半のルーマニアは、日本とはまるで違う環境で、驚くことばかりでした。冬になると野菜や果物が不足し、食生活に困ったこともあります。そうした日常生活から「なるほど、計画経済にはこういう側面

もあるのか」と学ぶことも少なくありませんでした。若かった私にとっては見るもの聞くもの全てが興味深く、不便さもまったく苦になりませんでした。

外交官の重要な仕事の一つは、赴任した国の情勢をさまざまな角度から知り、分析することです。毎日、新聞や雑誌、テレビの報道などから政府の方針や日本をはじめ他国との関係についての情報を収集し、精査してまとめる中で、外交官としての基盤をつくることができました。

通訳業務も数多く経験しました。語学力だけでは有能な通訳にはなれません。最初は「あそこはもっと違う表現にした方が良かった」と反省することばかり。失敗を胸にとどめておいて、次回に向けて自分なりに改善していく。その繰り返しで少しずつ力を磨いていきました。その成果が試される大きな機会が巡ってきたのは、38歳の時です。ルー

マニア大統領が来日し、天皇陛下と懇談されるにあたり、その通訳を私が務めることになりました。外交儀礼や想定される懇談内容について徹底的に勉強し、迎えた当日。長い通訳経験の中でこの時ほど緊張したことはありません。無事に終えた時、ほっとすると同時に大変重要な仕事をさせていただいたことを心から光栄に思いました。

語学力と外交力で 厳しい交渉を戦い抜く

ルーマニアでの勤務を経て、自分の強みといえる語学力(ルーマニア語)が培われた一方で、痛感したのは英語の重要性でした。国際外交の場で英語は不可欠です。外交官として将来の可能性を広げたくて北米転勤を希望し、幸



ケニアの難民キャンプを視察

私も、ケニアへの赴任が決まった時には驚きました。しかしアフリカでの3年余りの間に、東ヨーロッパや北米では得られなかった貴重な経験をたくさん積むことができました。その一つが、開発援助に関わる仕事です。

首都ナイロビにはアフリカ地域における国際機関の本部が集結しています。また政府開発援助(ODA)をはじめ、日本の機関や団体もケニアで開発支援に取り組んでいます。そうした日本の支援プロジェクトの

お手伝いをする機会が数多くありました。うれしかったのは、国際機関や各団体で活動する魅力的な日本の方々との交流できたことです。インフラ整備や衛生、教育などさまざまな分野で支援に尽力されている方々と一緒に仕事をしたり、時には食事をして話を伺う中で、皆さんがどれほど国際支援を生きがいに感じ、情熱を持って取り組んでおられるかを知ることができたのは、本当に幸運でした。

2020年からは、東ヨーロッパのモルドバ共和国で特命全権大使を務めています。モルドバ共和国と日本との間に外交関係が結ばれてから30年、日本はさまざまなかたちでこの国を支援してきました。私に課せられた使命の一つは、これまで築いてきたモルドバと日本との関係を多方面に拡大していくことです。大使館が主体となって交流の機会をつくるにとどまらず、民間企業やNGO・NPOの活動を側面支援し、交流拡大をお手伝いすることにも努めています。



記者会見でスピーチをする片山さん

運なことカナダ・トロントやアメリカ・ニューヨークでも駐在経験を積むことができました。この経験が、後に国際会議など多くの国々を相手にした外交で生かされています。

私が初めて日本の代表団を率いて国際会議に参加した時の議題は、地球環境問題でした。会議が始まると、先進国と途上国の意見は真っ向から対立しました。会議に備えて資料を読み込み、日本政府の立場をまとめて方針を立て、できる限りの準備を整えていたものの、連日厳しい交渉が続きました。少しでも自国に有利な条件を導き出そうと、どの国も必死です。こうした外交の場で求められるのは、まずは高い語学力です。専門的な知識を勉強しておくことは当然ですが、それを英語で表現できなければ、交渉を戦い抜くことはできません。それに加えて各国代表団の立場も考慮し、前向きに議論を進めていく力も必要です。

会期後半、議論が深まるにつれて次第に各国が目指している目標が見えてきます。それを見極めつつ、さまざまな論拠を持ち出して、日本としてどうしても譲れないポイントを押さえながら、各国が納得できる落としどころを探りました。難しい交渉を乗り切り、合意にこぎつけた時は大きな達成感がありました。

“ALL JAPAN”の一員として 力を尽くす

2016年7月、初めてアフリカ大陸に赴任しました。外務省に入って36年、そのうち20年以上海外で勤務してきた



モルドバ首都キシナウの市街地

2022年2月、ロシアがウクライナに侵攻した時には、モルドバ大使館にも大きな緊張が走りました。モルドバはウクライナと国境を接しているため、直後から数多くのウクライナの方々のモルドバへの避難が始まりました。その数は累計で40万人を超えます(2022年5月20日時点)。緊迫した状況の中、胸を打たれることがありました。それは、モルドバの一般家庭の方々が、何万人ものウクライナからの避難民を自宅に迎え入れていると知ったことです。モルドバの人々の生活はそれほど豊かではありません。それでも「困っている人が来るなら助けなくては」と手を差し伸べる人々の温かさに触れ、わがことのようにうれしく思いました。日本をはじめ各国が資金を援助したり、遠く日本からJICAやNGOの方々も大勢来て、援助活動を行っています。私は時間の許す限りこうした支援機関・団体の方々とお会いして、相談に乗ったり、お手伝いできることを伺ったりしています。長年東ヨーロッパの国々で仕事をし、多方面で培ってきた人的なつながりが私の財産です。それを駆使し、私も“ALL JAPAN”の一員という気持ちで、各団体や専門家が少しでも良い環境で効果的な支援活動ができるよう手を尽くしています。

再び平和が訪れたら、またモルドバで日本や日本文化を紹介したり、日本語を勉強したいと願うモルドバの方に場所や機会を提供したり、日本とモルドバの親交を深める取り組みを進めたい。さらに今後は、民間経済の交流の拡

大もお手伝いしたいと思っています。日本企業による直接投資が増え、モルドバの人々がこの国にいながら日本企業で働くことができれば、将来きっと自らの力で自国の経済を発展させていけるようになります。駐モルドバ特命全権大使として残る任期をそのサポートにささげるつもりです。

PROFILE

駐モルドバ特命全権大使

片山 芳宏さん

広島県出身。1980年に経済学部を卒業し、外務省入省。外交官として、ルーマニアをはじめ、カナダやアメリカ、ウクライナ、ケニアなどで勤務。また東京の本省勤務時代は、国家安全保障や北米との経済関係など多岐にわたる問題を担当。2013年、SDGsのオープンエンド作業部会の会議で日本代表団を率いた。2020年1月、駐モルドバ特命全権大使に任命され、同年2月、モルドバに着任。

“ 世界最大、全長200kmにも及ぶ
ワインセラーがあるなど、
モルドバ共和国は
観光地としても素晴らしい所です。
校友の皆さんもいつの日か
ぜひ、お越しください ”

国際紛争から「人間の安全」を守れるか？

2022年2月以降、ウクライナ問題が深刻な局面を迎える中、国際連合（国連）の役割について改めて議論が高まっている。30年以上にわたって国際機関とODAを通じて人道支援や開発援助に携わってきた石川幸子も、今回の問題に対する国連の動向を追いながら、国際紛争に対する国連の在り方について今一度考えを巡らせている。

「そもそも国連の目的は、国連憲章の第1章第1条に掲げられている通り『国際の平和と安全の維持』にあります」と石川は説明する。国連には、不当に平和を破壊した国に対してその他の国々が集団で制裁する「集団安全保障」の体制が想定されている。そしてこの「国際の平和と安全」に関して巨大な権限を持っているのが、「安全保障理事会（安保理）」だ。「紛争の平和的解決」が不可能となった場合は、安保理が経済制裁を行うか、あるいは軍事制裁を行うかを決定する。とはいえ国連は自前の軍隊を持たないため、軍事的措置を行うとなった場合は、安保理が加盟国に武力行使の権限を「授權」する形で実行することになる。

安保理は現在、常任理事国5カ国と非常任理事国10カ国の15カ国で構成されている。石川は「安保理による

紛争解決の際、しばしば問題になることがある」と言う。それは「実質的事項の採決に常任理事国5カ国を含む9カ国の賛成が必要」なことだ。「常任理事国が一国でも『拒否権』を行使すれば否決されてしまうため、現実にはなかなか採決に至りません」。ウクライナ問題においても、2022年2月25日に安保理の会合が開かれ、ロシアに対して軍の即時撤退を求める決議案が提出されたが、ロシアが拒否権を行使したため採決されなかった。

今回、こうした安保理の膠着状態を打開するために招集されたのが、緊急特別総会だ。「今回の招集の発端となっているのは、1950年に国連総会で採択された『平和のための結集決議』です。安保理で議論が行き詰まった時、安保理から総会にバトンを渡し、国際の平和と安全についての議論を進めるために出

されたのがこの決議でした」と石川。しかしこれも万能の解決策とはいえない。総会の決議に法的拘束力はないからだ。ここからも国際紛争の決着を政治的につけるのがいかに難しいかが分かる。「国連には総会や安保理の他、国際司法裁判所、人権理事会、人権高等弁務官事務所（OHCHR）などの機関があり、司法的解決を模索したり、ロシアの人権侵害の状況を調査したりしています。また、政治的決着が困難を極める中で、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）や国連世界食糧計画（WFP）のような人道支援機関の役割が大きくなっています」と石川は解説する。

世界の「安全保障」に関する概念は、これまでどのように変化してきたのかについて

も石川は振り返る。「冷戦後、急速にグローバル化が進む中で、感染症や犯罪など望ましくない『脅威』も国境を越えて拡大していきました。また国家間の紛争に加えて、民族闘争など国内紛争が深刻化。従来のように政府が自国民を外敵から守る『国家の安全保障』という概念では、国内で弾圧を受けている人たちを守れないという問題も出てきました」と背景を語る。そんな中、1994年に国連開発計画（UNDP）が出した「人間開発報告書」で、「国家の安全保障」を補完するものとして登場したのが「人間の安全保障」という概念だった。

石川によると、「人間の安全保障」という概念はその後国連の中で二つに分かれて議論が展開していく。一つは狭義の「人間の安全保障」で、もう一つは「保護する責任」という概念に発展し

ていった。「1994～99年にかけてルワンダやボスニア・ヘルツェゴビナ、 Kosovoで起きたジェノサイドをきっかけに、国連では『国際社会は内政不干渉を理由にそれを見逃していいの？』という意見が噴出。そこから『保護する責任』の議論が始まりました。2001年に出された『ICISS*報告書』には、どのような時に内政不干渉の原則が国際社会の『保護する責任』に取って代わられるかが明示されている。

ここで「保護する責任」の履行を判断するのは、またしても安保理だ。「2005年の国連総会決議において、さまざまな非人道的な罪から人々を保護するのは『国家固有の責任』であるとしながら、国家がそれに失敗している場合は、『安保理決議』に基づいて集団安全保障措置が実施されることが確認されました。さらに近年は、『国際社会の支援』によ

て、軍事介入に至る前に解決することに力点が移ってきています」。しかし拒否権を持つ常任理事国の存在や、各国の思惑などによって、「保護する責任」の下での軍事介入や国際社会の支援も実現できない現状がある。

紛争に対して国連が十分に役割を果たせていない中であって、とりわけ安全保障分野で国連の改革は可能だろうか。「難しい問題だ」と石川は言う。これまで何度となく安保理改革は試みられてきたが、実現には至っていない。「安保理の常任理事国が紛争の当事者になるという事態が起こっている今、少数の大国に大きな権限を与えるような機構は、もはや永続的な正当性を維持できなくなっているという指摘が出てもおかしくありません。ロシアのウクライナ侵攻は、明らかに国際社会のパラダイム・シフトであり、20世紀半ばに創設された国連が、21世紀の問題にどう対応できるのかという正念場にあります」と指摘した石川。「これを対岸の火事としてではなく、今後の私たちの平和で安全な暮らしに大きく関わる問題として捉え、注視していかなければなりません」と強調した。

*ICISS：カナダ政府によって設置された「介入と国家主権に関する国際委員会」

国際紛争に対する 国際連合の役割を考える

いしかわ さちこ
石川 幸子 教授
国際関係学部

専門領域は平和と開発、およびASEAN 地域研究。1985年から1992年まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）勤務。その後、笹川平和財団南東アジア協力基金、独立行政法人国際協力機構（旧国際協力事業団 JICA）タイ事務所、マレーシア事務所勤務を経て2005年から2021年3月まで JICA 国際協力専門員（平和構築、ASEAN 協力担当）、2021年4月より現職。

立命館オンラインセミナー 講義「現代社会を読み解く 国際連合と国際紛争—『人間の安全保障』の現在」（2022年3月25日）より内容を抜粋（一部加筆）
立命館アカデミックセンター（略称：ACR）は、学びを求める全ての人に開かれた拠点として、2015年にスタートしました。2020年8月からは、どなたでも・どこからでもアカデミックな講義を受講いただける「立命館オンラインセミナー」を展開。現在、「現代社会を読み解く」「SDGsを考える」「日本史探究」など、皆さまの学びのニーズにお応えする講義を開講中です。詳しくは、ACR ホームページをご覧ください。

▶<http://www.ritsumeiji.ac.jp/acr/>



～立命館ファミリー～

立命館出身の親子・孫・きょうだいなど、

在学時の思い出と今を紹介します。

3世代、「立命館」で結ばれた絆

立命館でできた友達は一生の財産です。(長女・巴奈さん)
たくさんの出会いで大きく視野が広がりました。(次女・華奈さん)



撮影：岡田 一也

「優勝」の悲願、息子がかなえてくれました。(祖父・隆夫さん)
子どもにも、立命館でアイスホッケーをしてほしかった。(父・直樹さん)
祖父、父から受け継いだ愛校心は人一倍あります。(長男・丈太郎さん)

——祖父、父、そして孫が立命館大学のアイスホッケー部で活躍されました。

隆夫さん 母が「息子には大学まで行かせたい」と、大学まである立命館中学校へ行かせてくれました。アイスホッケーとの出会いは高校生の時。家の近くにできたスケートリンクに行ったら大学生がアイスホッケーをやっていて、憧れたのがきっかけです。同好会をつくり、その年の冬にはインターハイに出場するまでになっていました。アイスホッケーの魅力はスピードとスリル。何より氷上の6人が一つになって戦う楽しさは、何ものにも代えがたいものでした。大学に進学した年、関西インカレで決勝に進出した時は、うれしかったですね。心残りは、当時最大のライバルだった同志社大学に一度も勝てなかったこと。それが悔しくてね。地域の子どもにアイスホッケーを教えて、一人でも多く立命館に送ってやろうと、息子が小学1年生になる時、ジュニアチームを立ち上げました。

直樹さん ある朝、父に防具一式を渡されて、スケートリンクに連れて行かれたのが最初です。初めは無理やりでしたが、あっという間に夢中になりました。勉強も一生懸命で、私も中学から立命館一筋でした。最高の思い出は、大学1年生の時、関西リーグで初優勝したことです。クラブのOB会長だった父も応援に来てくれ、「これで俺の夢はかなった。後はお前に任せる」と言われたことが今も心に残っています。

丈太郎さん 私がアイスホッケーを始めたのも小学1年生で、その経緯も父とまったく同じでした(笑)。やっぱり血筋なのか、面白くて気付いたら大好きになっていました。

直樹さん 長男が小学校に上がる時、しばらく活動が途絶えていた地域のジュニアチームを今度は私が復活させました。できれば息子にも立命館でアイスホッケーをしてほしいと思ったからです。

丈太郎さん 立命館高等学校に進学し、3年の時には少年男

祖父 (写真右から2人目)

三ツ野 隆夫さん
(’61理工) 京都府在住
京都市役所定年退職

父 (写真左)

三ツ野 直樹さん
(’89法) 京都府在住
学校法人立命館

長女 (写真右)

三ツ野 巴奈さん
(’15情理) 鹿児島県在住
京セラコミュニケーション
システム株式会社

長男 (写真左から2人目)

三ツ野 丈太郎さん
(’18理工) 京都府在住
株式会社京都銀行

次女 (写真中央)

三ツ野 華奈さん
(’20国関) 京都府在住
黄桜株式会社



谷岡元総長(中央)、直樹さん(谷岡元総長右)

大学の部で京都府代表(主将)として、21年ぶりに予選を勝ち抜き、国体に出場しました。おじいちゃん子だったので両親はもちろん、祖父も熱心に応援してくれるのがうれしかったですね。立命館

大学では周りがすごい選手ばかりで、大活躍とまではいきませんが、4年間精一杯打ち込むことができました。

直樹さん いまや立命館は全国屈指の強豪です。息子はハイレベルな環境で最後までやり抜き、わが子ながらよくやったと思います。

——お二方(巴奈さん・華奈さん)はなぜ立命館大学を選んだのですか。

巴奈さん 立命館愛の強い祖父と父に影響されたのかもしれませんが(笑)、高校時代に父に連れられてBKCに行き、外国映画に出てくるような広くてきれいなキャンパスに憧れたのが理由の一つです。全国から多様な人が集まる総合大学で、人間関係の幅を広げたいという思いもあって立命館大学を選びました。

華奈さん 私はそれほど強く薦められた記憶はありませんが、国際系のさまざまな大学を見た中で、「やっぱり立命館がいい」と自分の意思で決めました。

直樹さん 中学から大学まで立命館で過ごし、本当に楽しかったから「立命館が一番いいよ」と胸を張って子どもたちにも薦めました。実際に選んでくれた時にはうれしかったですね。実は、妻とも大学のアイスホッケー部で知り合いました。立命館とは本当に縁があります。

隆夫さん 息子や孫が立命館でアイスホッケーをするのは、私にとってはごく自然なことでしたが、二人の孫娘まで立命館大学に進学した時には不思議な感じがしました。家族としてだけでなく、「立命館」でもつながっている。そんな不思議な絆を感じています。

——大学で力を入れたことは?

丈太郎さん アイスホッケーと勉強を両立させようと頑張りました。クラブ活動は、リンクが借りられる深夜。朝日が昇る頃に帰宅し、すぐ大学に行って放課後はアルバイトをしてまた練習という毎日、ものすごくハードでした。その中で、1年間、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)への留学も経験しました。

巴奈さん 私はオリターの活動に力を注ぎました。皆で遅くまで

合宿や新歓の企画を考えたり、セミナーハウスに泊まり込んでイベントをしたり。先輩・後輩のつながりをつくれたのはオリター活動のおかげです。

華奈さん 私はサッカー部(女子)での活動が思い出に残っています。4回生の秋、最後の試合に勝って一部リーグへの昇格を決めた時は、皆で抱き合って喜びました。



華奈さん サッカー部時代の様子

直樹さん 子どもたちの試合には夫婦そろって、時には父とも応援に行きました。

——立命館大学で学んで良かったことは?

巴奈さん 一番良かったのは、人間関係をつくれたこと。一生の友達ができたことが財産です。

華奈さん 私もいろいろな人と出会って自分の考え方や視野が広がったのが良かったと、社会人になってより強く実感しています。

隆夫さん 大学卒業後も、ホッケー部のOB会長や京都府アイスホッケー連盟会長などを務め、75歳までアイスホッケーに携わることができました。40年間、やりがいのある仕事を全うできたのも、立命館だったからだと思っています。その結果、叙勲までいただくことができました。

直樹さん 私も37歳まで選手として現役を続けました。縁あって立命館に就職して25年以上になります。愛する母校で働いているなんて感慨深いですね。

丈太郎さん 私も愛校心は人一倍強いです。「こころ一番」とときに踏ん張る力が身に付いたのも、アイスホッケーのおかげだと思っています。今は祖父と父、私、それに姉や妹も含め3世代でゴルフをするのが楽しいですね。

巴奈さん 私が勤務する鹿児島島に父と祖父が遊びに来て、一緒にラウンドしたこともありました。

直樹さん アップダウンのあるコースでも、カートにも乗らずに回る父には驚かされませよ(笑)。

隆夫さん これもアイスホッケーで鍛えた足腰があるからです。立命館とアイスホッケーのおかげで人生を楽しんでいます(笑)。



巴奈さん 学生時代の様子

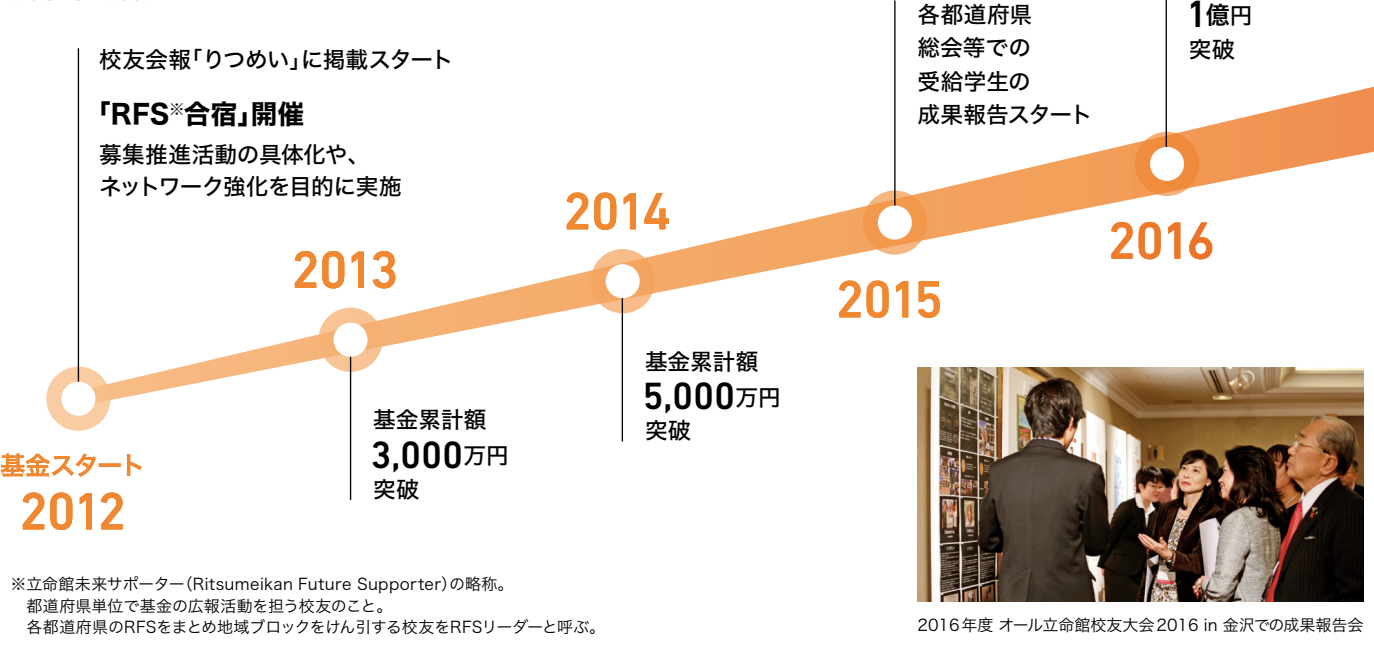
「校友会未来人財育成基金」が 学生の学びのフィールドを広げています。



2012年度 第1回校友会未来人財育成基金募集推進特別委員会



2013年度 RFS・RFSリーダーズ会議



※立命館未来サポーター(Ritsumeikan Future Supporter)の略称。
都道府県単位で基金の広報活動を担う校友のこと。
各都道府県のRFSをまとめ地域ブロックをけん引する校友をRFSリーダーと呼ぶ。



2016年度 オール立命館校友大会2016 in 金沢での成果報告会

TOPICS 01 2021年度 校友会未来人財育成奨励金(団体支援)「成果報告会」、 「受給卒業生・修了生を祝う会」を開催しました。

2022年3月15日、「校友会未来人財育成奨励金(団体支援)」受給団体による成果報告会をオンラインで開催し、52名の受給学生と、4名の校友会未来人財育成基金募集推進特別委員が出席しました。グループワークでは、各団体から1名が参加

し、今年度の活動で学んだことや、挑戦したことについて意見交換を行いました。

また、卒業・修了を迎える奨励金受給者を対象にオンラインで「受給卒業生・修了生を祝う会」を開催しました。2019・2020



年度奨励金受給者の田上優里香さん(21院文、写真右、左下)から後輩学生に対し、奨励金を受給した取り組みがその後どのように活かされたか、仕事とどのように両立していくかなどについてお話があり、学生から田上さんへの質問も活発に行われました。

校友会未来人財育成基金の実績
(2022年5月31日時点)

4,823の個人・団体・法人から **296,345,003円**



2019年度「+R校友会未来人財育成奨励金(成長支援)」奨励金証書授与式



2020年度 オンラインでの成果報告会

未来人財育成基金
10年の節目

TOPICS 02 校友会未来人財育成基金は10年の節目を迎えます。

校友会未来人財育成基金は、校友が後輩(学生)・母校をサポートする立命館ならではの支援の形として、2012年10月にスタートしました。2022年5月31日時点で、校友の皆さまからの贈り物(GIFT)は、総額2億9,634万5,003円となり、3億円が目前に迫っています。

した学生が校友となり次の後輩を支えるという循環型の支援を目指しています。

後輩を支援する事業を充実させることこそが、母校の発展を支援することであるとの認識の下、ひと口1,000円から毎月継続的に寄付できる仕組みを整え、基金を未来人財育成奨励金という形で延べ700名の学生たちが受給しました。これからは、その成長

2020年度、2021年度と新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が思うように進まない中においても、校友の皆さまから温かい贈り物をいただき、そのことは後輩たちの活動の支えになりました。2022年度はこの基金がスタートしてから10年の節目の年となります。今後も未来人財育成基金の取り組みを広げてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

募集要項	申込方法
<p>■ 寄付の金額 (1)個人・団体(校友会などの任意団体)の場合 ひと口1,000円からご支援いただけます(一括寄付と継続寄付[毎月・年2回・毎年]のどちらも可能です)。 (2)法人の場合 ひと口の金額は特に定めておりません。</p> <p>■ 募集期間 期間に定めはありません。</p> <p>■ 活用プラン 海外留学支援、成長支援、課外活動支援、研究支援、施設整備支援。</p> <p>■ 税制上の優遇措置について 本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。</p>	<p>① WEBで申し込む 立命館大学校友会のホームページよりお申し込みください。簡単な手続きで完了いたします。クレジットカードにてご寄付いただけます。</p> <p>スマートフォンからのアクセスはこちら! https://alumni.ritsumei.jp/gift/</p> <p>② 書面で申し込む 立命館大学校友会事務局に資料をご請求ください。銀行振込・口座振替・現金にてご寄付いただけます。</p>
<p>お問い合わせ先(受付時間 土日祝を除く 9:30~17:00)</p>	
<p>校友会未来人財育成基金に関しては 立命館大学校友会事務局 075-813-8216</p>	<p>ご寄付の手続き、税制上の優遇措置に関しては 立命館 総務部 寄付事務局 075-813-8110</p>

今年はおオンラインに加え、
キャンパスでも実施します！

オール立命館 校友の集い2022

ひさしぶり！はじめまして！
— 出会い、広がるつながり —

2022.
10.15 SAT

オンライン形式
ライブ交流企画

2022.
10.16 SUN

オンライン形式
ライブ配信企画

2022.
10.23 SUN

対面形式
キャンパス企画

Asia Week
[フェスタ] 2022
との連携企画

ライブ交流企画

Zoom交流会の幹事を募集します！

今年もZoomでの交流会を実施します。懐かしい仲間語り、共通の趣味について語り、新しいつながりを生み出す企画を立ち上げたり…。みんなとつながるZoom交流会を開催しませんか？

幹事の申込方法

まずは幹事エントリーフォームからお申し込みください！(所要時間1分)
<http://hajimari.info/2022/entry.html>

※エントリー後、校友会事務局から幹事の方に当日までの進め方についてのメールが届きます。

※幹事の方には、Zoomアカウントのライセンスをご利用いただけます。



募集締切 9月上旬(予定)

最新情報は
特設ウェブサイトをご確認ください。

ライブ配信企画

今年もライブ配信企画を実施します。自宅や職場、移動中など、どこからでもお気軽に参加(視聴)できます。

〈昨年度の様子〉



キャンパス企画 Asia Week(OICフェスタ)2022との連携企画

大阪いばらきキャンパス(OIC)で開催する「Asia Week(OICフェスタ)2022」との連携企画を行います。学生や地域の方々が多数参加され、キャンパスの雰囲気が味わえます。3年ぶりに校友の皆さまと再会してみたいかがでしょうか。



「オール立命館校友の集い2022」に関する最新情報は、随時、特設ウェブサイトに掲載します。

▶ <http://hajimari.info/2022/>

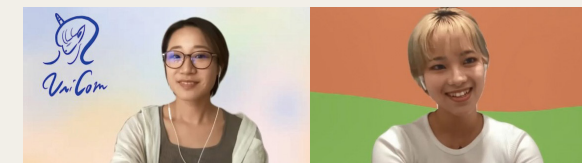
今年度も「校友大会」は、「オール立命館校友の集い」の名称としています。

2022年度 校友会幹事会報告

6月4日、2022年度「立命館大学校友会 幹事会」を昨年に引き続きオンライン形式で開催し、約170名の校友会幹事が出席しました。

議事では、村上健治校友会会長が議長として選出されたのち、以下の全ての議案が幹事へ説明され、議決事項については、いずれも賛成多数により可決されました。

議事の後は、第2部「立命館大学校友会未来人材育成奨励金 活動報告」として、2021年度受給団体「Uni-Com」(ユニコーン)の2020年度代表の隅田雪乃さん('22生命、新卒幹事)と2021年度・2022年度代表の松本愛梨さん(食マネ4)から「循環をもっと身近に、あたりまえに」をテーマに活動報告がありました。食品ロス問題をコンポスト(堆肥)の普及による資源循環と地域住民の関心拡大によって解決する取り組みが発表され、参加者からたくさんの質問と激励が寄せられました。



2021年度受給団体「Uni-Com」隅田雪乃さん(左)と松本愛梨さん(右)

報告事項

1. 新型コロナウイルス禍における2021・2022年度の取り組みについて
2. 「オール立命館校友の集い2021」の開催報告について
3. 2022年度校友大会「オール立命館校友の集い2022」の開催について
4. 校友会未来人材育成基金募集推進の到達点と2022年度の取り組みについて
5. オリンピック・パラリンピック出場を目指す学生・校友への立命館大学校友会奨励金にかかわる取り組みについて
6. 2022年度立命館大学校友会新卒幹事の選任について
7. 幹事役員任期満了にともなう次期幹事選任について

議決事項

1. 2021年度事業報告および2021年度決算報告について
2. 2022年度事業計画案および2022年度予算案について

2021年度決算 (単位:円)

●収支決算書(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

●経常収入の部		●経常支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
会費収入	235,260,000	組織強化事業支出	39,056,443
資産運用収入	56,762	校友大会事業支出	18,094,534
組織強化事業収入	14,705	広報事業支出	75,828,133
校友大会事業収入	0	母校支援事業支出	20,774,985
広報事業収入	26,056,995	社会貢献事業支出	700,000
社会貢献事業収入	473,287	校友会記念事業支出	0
その他の収入	50,651	管理費支出	29,901,494
経常収入合計	261,912,400	経常支出合計	184,355,589
		経常収支差額	77,556,811

●貸借対照表(2022年3月31日現在)

●資産の部		●負債の部	
科目	決算額	科目	決算額
現金預金	206,568,708	未払金	27,448,048
立替金	0	預り金	94,200,000
仮払金	0	負債合計	121,648,048
前払金	16,520		
未収金	876,803		
定期預金	450,000,000		
資産合計	657,462,031		

●正味財産の部	
科目	決算額
定期預金	450,000,000
運用財産	85,813,983
正味財産合計(うち当期正味財産増加額)	535,813,983(77,556,811)
負債及び正味財産合計	657,462,031

2022年度予算 (単位:円)

●収支予算書(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

●経常収入の部		●経常支出の部	
科目	予算額	科目	予算額
会費収入	234,600,000	組織強化事業支出	63,780,000
資産運用収入	120,000	校友大会事業支出	29,000,000
組織強化事業収入	400,000	広報事業支出	88,000,000
校友大会事業収入	0	母校支援事業支出	39,000,000
広報事業収入	26,100,000	社会貢献事業支出	2,500,000
社会貢献事業収入	0	管理費支出	35,395,000
その他の収入	50,000	経常支出合計	257,675,000
経常収入合計	261,270,000	経常収支差額	3,595,000



村上健治校友会会長(左)と学校法人立命館 仲谷善雄総長(右)



Event Report

2022年3月20～22日に、各キャンパスにて2021年度立命館大学卒業式・大学院学位授与式、4月2日に、京都市勤業館「みやこめっせ」にて2022年度立命館大学・大学院入学式が挙行されました。入学式は、式典と新入生歓迎セレモニーの2部構成で行われ、第2部の新入生歓迎セレモニーでは、学生による圧巻のパフォーマンスが3年ぶりに披露されました。



▲2021年度 立命館大学卒業式・大学院学位授与式

2022年度 立命館大学・大学院入学式▼



TOPICS

大学卒業式・大学院学位授与式では、出席者を卒業生・修了生に限定したことから、立命館大学と立命館大学校友会からお祝いの気持ちを込めてバラをプレゼントしました。



WEB SITE

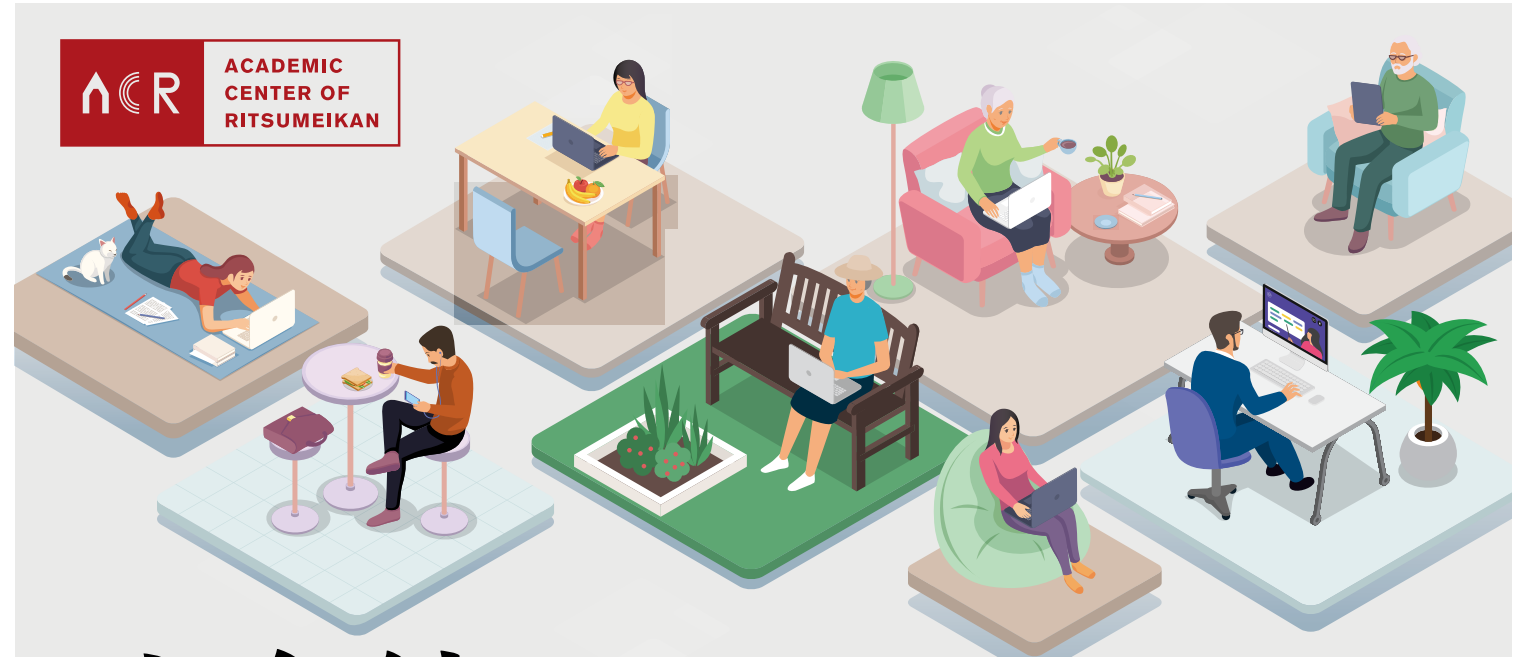
卒業式特別サイト



入学式特別サイト



各サイトでは、動画やメッセージがご覧いただけます。



立命館オンラインセミナー

新型コロナウイルス感染症は、社会インフラ・経済システムに急激な変化をもたらしました。また、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進、ジョブ型雇用など労働環境の変化は、われわれの生活様式や働き方、そしてコミュニケーションのあり方にも大きな見直しを迫っています。「学び」も大きな影響を受けるなか、立命館大学は、「学び」を求めるすべての人に開かれた新たな拠点として「立命館オンラインセミナー」を開始しました。どこからでもアカデミックな講義を受講できる、何度でも繰り返し視聴できる、素朴な疑問もネットであれば気軽に質問できる、そんな「学び」をあなたも体験してみませんか？


 PC・スマホ・タブレットからカンタン受講！
※1


 自宅からでもどこからでも受講できる！


 Q&Aで講師に質問ができる！
※2

※1 受講にはあらかじめZoom(アプリケーション)のダウンロードが必要です。
 ※2 受講者は顔や名前が他の受講者に表示されることはありません。

現在募集中の講義は、こちらから



お申し込み方法

インターネットからお申し込みください

スマホ・タブレットから



PCから

立命館アカデミックセンター 検索

※電話・FAX・郵送・メールでのお申し込みはお受けしておりません。※お支払いはクレジットカード払いのみです(JCB・VISA・Mastercard・American Expressがご利用いただけます)。

2022年度講義ラインアップ(二部)

4/20 幕末維新の傑物たち
山崎 有恒

5/18 微生物が環境を守る
久保 幹

4/27 日本古代史を彩った女性たち
本郷 真昭

5/25 フランス哲学から読み解くジェンダー平等
横田 祐美子

6/22 スローフードと持続可能な社会
石田 雅芳

6/8 より安全な水道水を目指して
神子 直之

6/22 電気自動車は本当に環境にやさしいのか？
山末 英嗣

主催

立命館大学 社会連携課
住所：京都市中京区西ノ京朱雀町1

お問い合わせ

立命館アカデミックセンター事務局
E-Mail: acr02@st.ritsume.ac.jp

Facebookも発信中!



オンラインで つながる、ひろがる

各校友会のオンラインでの取り組み

立命館大学校友会では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、オンラインでの取り組みを推進し、各種会議や委員会もオンラインで開催しています。各都道府県校友会や学部・学系校友会でもオンラインでの活動が広がっており、その一例をご紹介します。

各校友会による
オンラインイベントの
開催案内はこちら。
ぜひご参加ください！



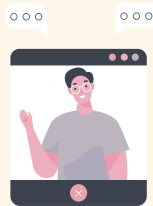
3/19
都道府県

立命館東京キャンパス オンライン併用開催 /
東京校友会 総会



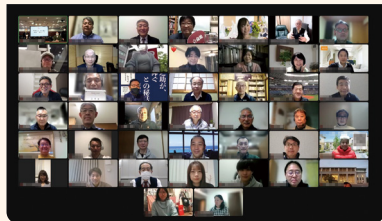
1/26
サークル
OB・OG

初のオンライン開催 /
理工ESSOB会 総会



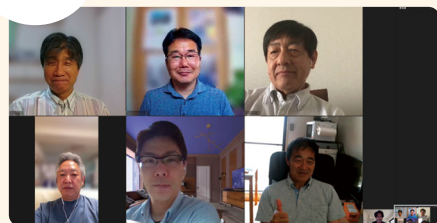
2/11
都道府県

オンライン開催 /
大阪校友会 総会



5/29
学部・学系

オンライン開催 /
RIMOT 総会



校友会ネットワーク

各校友会が開催した行事の報告です。



行事一覧

2022年4月～7月に行われた各団体の行事の一部を紹介しています。

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<https://alumni.ritsumeiji.jp>

日程	校友会・グループ	会場
2022/4/25(月)	立命館学園会計人会 研修会	京都税理士会館
2022/4/30(土)	静岡県校友会&立スポコラボ企画	オンライン開催
2022/5/3(火)	静岡県校友会 静岡国際陸上応援企画	エコパスタジアム(静岡スタジアム)
2022/5/15(日)	奈良県北部校友会 総会	ホテル日航奈良
2022/5/15(日)	立命館スポーツフェロー 2022年度総会 創設40周年記念式典・祝賀会	ホテルグランヴィア京都
2022/5/28(土)	北海道校友会 総会	ACU-A会議室(オンライン併用開催)
2022/5/29(日)	RIMOT(テクノロジー・マネジメント研究科校友会) 総会	オンライン開催
2022/6/18(土)	東広島地区校友会 総会	中国新聞西条販売所
2022/6/25(土)	立命電友会 総会	オンライン開催
2022/6/25(土)	経営学部校友会 総会・講演会	立命館大学大阪いばらきキャンパス (オンライン併用開催)
2022/7/3(日)	山形県校友会 総会	ホテルメトロポリタン山形
2022/7/9(土)	岩手県校友会 総会	ホテルニューカーリーナ
2022/7/9(土)	法学部同窓会 総会・講演会	オンライン開催
2022/7/16(土)	宮城県校友会 総会	仙台市青葉区中央市民センター
2022/7/23(土)	青森県校友会 総会	オンライン開催
2022/7/30(土)	京都校友会 総会	オンライン開催

※各団体において、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底し、開催されました。 ※2022年5月末時点の情報となります。

校友会
TOPICS

立命寄席が開催されました

2022年4月17日、大阪の天満天神繁昌亭において「第16回立命寄席」が開催されました。

立命館大学落語研究会OBで、現在、上方落語界でご活躍中の桂塩鯛・桂小春團治両師匠による「立命寄席」は今年で16回目を迎え、「立命館大学校友会関西ブロック文化事業」として、立命館大学の校友が交流する文化イベントとして定着しています。今年度は、昨年に引き続きコロナ禍の影響を考慮し、感染症対策を行った上で、対面とオンラインのハイブリッド形式での実施となりました。

当日会場には約100名の参加があり、大阪や京都などの関西地域にお住まいの校友だけでなく、名古屋などの遠方から参加された方もおり、いかにこの「立命寄席」が多くの校友の皆さまに親しまれているかを感じることができました。



桂小春團治師匠(左) 桂塩鯛師匠(右)

復興のその先へ 東日本大震災 被災地はいま。

～復興リレーメッセージ 第7回 岩手県～

2011年3月11日の東日本大震災から11年がたちました。立命館大学校友会の東日本大震災被災地復興支援の活動は2020年3月をもって一つの区切りを迎えましたが、震災の記憶を風化させないために、“被災地のいま”を各校友会からお届けします。



三陸鉄道鶴住居駅前のモニュメント

東日本大震災から11年が過ぎました。岩手県沿岸被災地は2021年12月に三陸沿岸道路が八戸から仙台まで全線開通したことにより、人やモノの往来が活性化しております。しかし、陸前高田など市街地に人が戻らないという現実に直面しているのも事実です。

校友会において復興支援特別委員を務めさせていただき、その後、できることと言えば内陸から沿岸へ買い物に行き、被災地の今を常に見ることくらいではないかと思っております。一人ひとりの力は小さいが、継続することが大切と自分に言い聞かせ、あの日のことを忘れないようにしております。

平泉では3年ぶりに「春の藤原まつり」が開催され、多くのお客さまをお迎えしました。

新型コロナウイルス感染症は無くなるから、校友会活動も工夫しながら継続して取り組んでいきたいものです。

立命館大学岩手県校友会
小野寺正耕(’96経済)



寺村 美里さん(’18院生命)
埼玉県在住/DIC株式会社 パッケージ技術本部
#サステナブルな“Next Package”の開発

5R[※]を切り口とし、機能性と環境負荷低減を両立した次世代の食品パッケージ素材開発に取り組んでいます。よりおいしく、より楽しく、より安全なものが世界中の消費者に届くよう素材でサポートすると同時に、循環型社会の実現を目指します。

※ Reuse, Reduce, Recycle, Redesign, Reduce CO₂



河野 至宏さん(’16生命)
滋賀県在住/農家民宿たらいち邸 代表
#高島を第三の故郷に

滋賀県高島市でかやぶき古民家を活用した農家民宿を営んでいます。田舎ならではの体験を通してお子さまに特別な日常を提供しています。20年後、当宿で過ごしたお子さまが親になって再訪していただける場所を目指しています。

会報と大学・校友会の最新ニュースをメールでお届けします!

年3回

校友会報「りつめい」

\\ 会報メール配信登録サービス受付中! /



校友会報「りつめい」最新号をメールでの受け取りに変更しませんか?

ご登録いただくと、PDFまたはデジタルブックでご覧いただけます。

! 本サービスに登録されると、現在会報をお届けしているご住所への郵送はされません。ご了承ください。

- お申し込みのタイミングによっては、次々号の会報からの配信となる可能性があります。
- 会報のお届け(郵送や本サービスによるメール配信)は、立命館大学校友会の終身会費30,000円をお納めいただいている方に限ります。

月1回[※]

立命館 Beyond Borders NEWS

\\ メールアドレスをご登録ください /



※月1回程度
(年12回程度)配信

立命館 Beyond Borders NEWSとは?

- 立命館大学の教育・研究や学生に関わる最新ニュース、イベントやセミナーのご案内、校友会のイベント情報などをお届けします。
- 校友会にメールアドレスをご登録いただいている皆さまに、月1回程度メールで配信します。(既に立命館 Beyond Borders NEWSが届いている方は、新たな手続きは不要です。)

各種お手続きは、右記のご連絡先変更フォームから ● メールアドレスの登録・変更 ● 会報受け取り方法の変更 など

お手続き方法

ご連絡先変更フォームにて、必要事項をご入力の上、「立命館からのご案内について」の欄でご希望の内容を選択してください。

- ▶ 校友会報「りつめい」をメールで受け取るなら……
【会報のお届けについて】→「メールでの送付を希望する(現住所メールアドレス宛)」を選択してください。
- ▶ 立命館 Beyond Borders NEWSを受け取るなら……
【メールニュース・各種ご案内について】→「案内を希望する」を選択してください。

<https://alumni.ritsumei.jp/procedure/entry/>



#CHEERING #ALUMNI 応援しよう、個のかがやきを。

立命館大学校友会は、校友会活動ビジョンのもと、日本全国・世界各地で、今を頑張っているかがやく校友たちを応援しています!



東 竜さん(’12経済)
山口県在住/株式会社高田(TAKADA COFFEE) 専務取締役
#珈琲バイヤー&審査員 #地域再生

珈琲審査員を務め、世界各国の生産地を訪問しています。元星野リゾート、海外訪問60カ国以上という経験を生かし、武家屋敷や銀行の跡地を再生。現在、特許取得済みの「コーヒーリキュール」など業界や地域を越境したプロジェクトを進行中です。



栗津 愛実さん(’10文)
アメリカ合衆国・バージニア州在住/日本語教師
#日本語教育 #文化的意識

アメリカの政治の中心地ワシントンDCエリアで、K-12(義務教育)や連邦政府職員など、幅広い学習者に日本語や日本文化を教えています。外国語を学ぶことと内省することは表裏一体だと感じる日々です。教育学修士取得に向けても勉強中です。

学生の活躍

[2022 JANUARY~2022 MAY]



最新情報は
こちらを
チェック!

SPORTS

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

ボート部

1

5月12~15日に海の森水上競技場(東京都)で「第100回全日本選手権大会」が開催され、立命館大学女子がエイトと舵手つきフォアで優勝しました。エイトでは、校友の高野晃帆選手('20スポ健)も活躍しました。



パラ・パワーリフティング

2

1月29日、東京国際クルーズターミナル(東京都)で開催された「第22回全日本パラ・パワーリフティング選手権大会」女子67kg級の部で、森崎可林選手(法1)が自己新記録および日本新記録をマークし、優勝を果たしました。



相撲部(女子)

3

4月10日、堺市大浜公園相撲場(大阪府)で開催された「第10回国際女子相撲選抜大会」にて、柴田歩乃佳選手(経営2)が個人戦軽量級で優勝を果たしました。



トライアスロン部

4

5月22日に渡良瀬遊水地(群馬県)で開催された「第13回日本学生スプリングトライアスロン選手権渡良瀬大会 兼 2022全日本大学トライアスロン選抜大会」で、白石怜佳選手(食マネ3)が大学選抜女子で初優勝しました。また、3選手の合計タイムで競う女子団体でも初優勝を果たしました。



CULTURE

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

落語研究会

5

2月19・20日、長良川国際会議場(岐阜県)で開催された「第19回全日本学生落語選手権『策伝大賞』」にて、立命亭鯛團こと芝田純平さん(文4)が準優勝に当たる「審査員特別賞」を受賞しました。



映像学部望月ゼミ

6

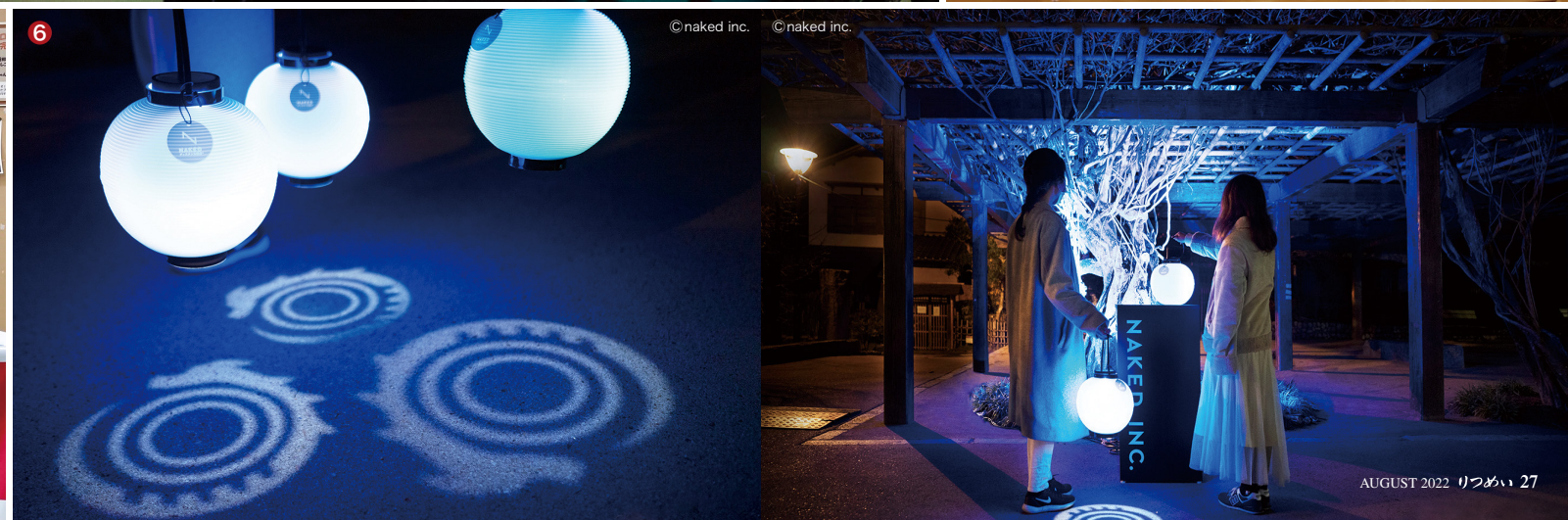
立命館大学映像学部 望月茂徳准教授のゼミに所属する学生たちが、NAKED,INC.とのコラボレーションで作品を制作し、3月4~13日に開催された「京都・東山花灯路-2022」で作品を展示しました。



レゴ部

7

立命館大学レゴ部は、国宝に指定されている「彦根城」天守をレゴ®ブロックで制作し、3月13日に近江鉄道本社でお披露目会が行われました。滋賀県と彦根市が目指す彦根城世界遺産登録の推進に協力しました。



©naked inc. ©naked inc.

写真提供/西岡浩記

写真提供/岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会



文学部「キャンパスアジア・プログラム」が 「大学の世界展開力強化事業」で最高評価

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」(平成28年度採択分:タイプA)の最終評価において、文学部の「東アジア人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス(通称:キャンパスアジア・プログラム)」が、私立大学で唯一の最高評価(S評価)を獲得しました。東アジアにおける人文学リーダー養成を目的に立命館大学と広東外語外貿大学(中国)、東西大学校(韓国)の3大学が共同運営するプログラムです。定員増加やコロナ対応、修了生の多さなどが評価されました。



立命館先進研究アカデミー(RARA)始動 「RARAフェロー」に10名を任命

立命館大学は、独自の研究推進システムとして、本学の研究をけん引する中核研究者が集まる「立命館先進研究アカデミー(RARA:Ritsumeikan Advanced Research Academy)」を発足。中核となる研究者を学内外から公募し、2022年度の「RARAフェロー」10名を任命しました。3月25日、朱雀キャンパスにて任命式が行われ、仲谷善雄学長よりRARAフェローに任命証が手渡されました。今後、研究者が掲げる研究目標やキャリアに応じて最適な支援を行います。



駐日インド大使が 立命館大学にご来学

3月28日、朱雀キャンパスにて、インド政府から寄贈されたブッダ像の除幕式を行いました。式典には、サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使をはじめ在大阪・神戸インド総領事らにご臨席いただきました。学校法人立命館からは森島朋三理事長、仲谷善雄総長、上野隆三学長特別補佐が出席。ブッダ像とともに寄贈された多数の書籍が披露された後、インドと日本の研究・教育に関する交流・連携について意見を交わし、両国間の交流・連携の発展を誓い合いました。



新入生歓迎企画を 3キャンパスで開催

4月4・5日の両日、衣笠、びわこ・くさつ、大阪いばらきの3キャンパスで、2022年度新入生歓迎企画「ウェルカムフェスティバル」を開催しました。学生自治組織(立命館大学学生会)と大学が連携し、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながらの現地開催の他、オンライン形式でも配信しました。各キャンパスでは、各クラブ・サークルが対面ブースで活動について紹介したり、ステージで迫力あるパフォーマンスを披露するなど、さまざまな企画が催されました。



産業社会学部・永野聡准教授が 文部科学大臣表彰・科学技術賞を受賞

4月8日、令和4年度「科学技術分野の文部科学大臣表彰」の科学技術賞・理解増進部門において、産業社会学部・永野聡准教授らの研究グループが「ゆりあげ港朝市の復興を通じた東日本大震災に関する理解増進」の業績により、表彰を受けました。本部門は、科学技術に関する関心・理解の増進に寄与した者などに授与されます。永野准教授らは東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県名取市閑上地区において、「ゆりあげ港朝市」の再開とにぎわいの創出を献身的に推進し、地区全体の活性化に貢献しました。



共に活動に参加したゼミのメンバーと永野先生(写真中央)

「VR技術を活用した学習教材の開発」が 産学連携で本格スタート

4月14日、立命館大学教育・学修支援センターとSOLIZE株式会社が連携して進める「VR技術を活用した学習教材の開発」が、衣笠キャンパスで本格的にスタートしました。産業社会学部の野原博人教授のゼミ生12名が、SOLIZE株式会社と連携し、3カ月をかけてVR技術を用いた理科教材のプロトタイプを制作していきます。VR技術が学生の学習の質向上につながるか、教育学の観点から検証することを目的としています。



「THEインパクトランキング2022」 西日本の私立大学で最高評価を獲得

4月27日、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education(以下、THE)」が発表した「THEインパクトランキング(THE Impact Rankings)2022」において、立命館大学は総合評価で201-300位にランクインし、西日本の私立大学で最も高い評価を獲得しました。同ランキングは、国連で採択された「持続可能な17の開発目標(SDGs)」に関わる大学の社会貢献活動や研究活動をTHEがランク付けしたものです。本学は総合評価に加え、二つの項目で世界100位以内に入りました。



衣笠キャンパスにおける食堂から出る生ごみなどの堆肥化の取り組み

「いばらき×立命館DAY 2022 ～地域で未来をつむぐ～」を開催

5月15日、大阪いばらきキャンパス(OIC)にて、地域交流イベント「いばらき×立命館DAY 2022～地域で未来をつむぐ～」を開催しました。新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、3年ぶりの現地での開催となりました。当日は屋内外で100を超える出展や出演団体による企画が実施され、約2,500名の市民の方にお楽しみいただきました。学生による模擬店や展示企画の他、企業による緊急車両体験、移動図書館、ホッケーやチアリーディングなど各種スポーツ体験企画も盛況でした。



叙勲

■旭日中綬章
佐竹力總氏(70法)
元一般社団法人
日本フードサービス協会
会長

石見利勝氏(教職員校友)
元姫路市長

■瑞宝中綬章
中井川禎彦氏(75法)
元北海道管区行政評価局長

吉川恒夫氏(教職員校友)
京都大学名誉教授

山内修一氏(76法)
元京都府副知事

■瑞宝小綬章
浅田隆氏(70院文)
奈良大学名誉教授

小西良政氏(76法)
元大阪区検察庁副検事

■瑞宝双光章
井上正氏(69法)
元滋賀県健康福祉部長

狩野磯雄氏(69法)
元神戸地方務局姫路支局長

竹岡敏氏(71理工)
元公立小学校長

■瑞宝単光章

高橋弘佳氏(87経済)
元陸上自衛隊
関西補給処桂支処

褒章

■黄綬褒章
岡本徳昭氏(67経済)
大春商事株式会社
代表取締役

就任(内定含む)

塩田邦成氏(78文)
大阪電気通信大学学長

今村正治氏(81文)
佐賀女子短期大学学長

杉本卓士氏(83法)
株式会社ニチリョク
代表取締役社長

松本均氏(83法)
京都府長岡京市副市長

古本伸一郎氏(87法)
愛知県副知事

森田幸哉氏(87経営)
日本電計株式会社
代表取締役社長

東英和氏(88法)
株式会社
AOKIホールディングス
代表取締役社長

加世田十七七氏(88法)
和弘食品株式会社
代表取締役社長 CEO

入江到氏(88経済)
株式会社鳥取銀行
代表取締役頭取

福井正弘氏(88経営)
パレモ・ホールディングス
株式会社
代表取締役社長

鈴木治一氏(91法)
京都弁護士会会長

嶋田貴之氏(91経営)
株式会社アプラス
代表取締役社長

廣川次郎氏(91産社)
JFE商事鋼管材株式会社
代表取締役社長

白川儀一氏(93産社)
損害保険ジャパン株式会社
代表取締役社長

堀井勇吾氏(95経済)
株式会社オートバックスセブン
代表取締役社長執行役員

吉井唯氏(04院理工)
ダイニチ工業株式会社
代表取締役社長

伊住公一朗氏(09文)
株式会社淡交社
代表取締役社長

当選

二宮隆久氏(78法)
愛媛県大洲市長選挙

関伸久氏(96経営)
山口県萩市議会議員選挙

山本優真氏(13政策)
大阪府泉南市長選挙

訃報

北村春江氏(52法)
元学校法人立命館
理事・評議員

植松繁一氏(54法)
元学校法人立命館
理事・評議員、
立命館大学校友会顧問

大西淳氏(61理工)
元新潟県校友会会長

中野雅博氏(教職員校友)
元立命館アジア太平洋大学
副学長、
立命館大学名誉教授
(国際関係学部)

塩田親文氏
立命館大学名誉教授
(法学部)

鄭小平氏
立命館大学経済学部教授

校友会へご寄贈いただきました
ご著書の中から一部をご紹介します。

◆川窪伸也氏(80経済)著
『売れる!! 福祉用具 販売のツボ
社会保障制度の財源抑制に備え、
福祉用具の「本質」を理解しよう』
株式会社文芸社 1,320円(税込)

◆高松真理氏(82産社)著
『対人援助を心理職が変えていく
—私たちの貢献と専門性を再考する—』
遠見書房 2,200円(税込)

◆平松ヨウイチ氏(93文)著
『調身ウォーク
～足の置き場で歩きは変わる～』
つむぎ書房 1,760円(税込)

◆道野真弘氏(94院法)編著
『ネオ・ベーシック商法1
商法入門/総則/商行為』
『ネオ・ベーシック商法2
会社法I【ガバナンス編】』
『ネオ・ベーシック商法3
会社法II【ファイナンス編】』
株式会社北大路書房
各2,750円(税込)

古本を活用した新たな支援のかたちです

BOOKS FOR BOOKS
～立命館の本活～

2013年4月から2022年5月末までに
7,325名の方から341,493冊の
本をお送りいただきました。
誠にありがとうございます。
引き続き、校友の皆さまのご協力を
よろしくお願い申し上げます。



どのような仕組みですか？



以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

- ISBN のない本 ※バーコードの有無は関係ありません。
- 百科事典 ● コンビニコミック ● 個人出版の本 ● マンガ雑誌 ● 一般雑誌
- 同タイトル11点以上 ● シングル CD ● 投票券等特典付き CD

コンビニで証明書が発行可能になりました

立命館大学は、1990年4月以降の卒業生を対象として、一部証明書を
コンビニエンスストアで発行・印刷できるサービスを開始しました。

(日本国内のセブン-イレブン、ローソン、ファミリーマートが対象)



手順

- 右記のWEBサイトから利用を申請(初回のみ)。
https://crt.ritsumeai.ac.jp/Student/ja-JP/Account/Login?Graduated=True
本人確認書類の画像データが必要です。
2回目以降は、利用申請は不要です。
- 利用申請の承認後、通知メールが届き、
申請WEBサイトへログイン。
- メニュー画面から、受取方法で「コンビニ発行」を選択。
- 必要な証明書の種類と支払い方法を選択。
※コンビニ決済とクレジットカード決済が利用可能。
- 選択したコンビニのマルチコピー機で証明書を発行・印刷。



コンビニで発行できる証明書

- 卒業・修了証明書
- 退学証明書
- 成績証明書
- 非正規生証明書
- 在学期間証明書

料金

- 証明書発行手数料……………300円/1通
- システム利用手数料……………250円/1回の申請
- マルチコピー機のプリント料金……………20円/1枚

手続きの詳細、また1990年3月以前に卒業された方の証明書申込については右記のWEBサイトをご覧ください。

利用申請に関するお問い合わせ先
立命館大学衣笠学びステーション TEL:075-465-7877 (平日 9:00～17:00)

https://alumni.ritsumeai.jp/procedure/info/



次世代研究大学を目指す立命館大学が「RARA(立命館先進研究アカデミー)構想」を打ち出した。4月には、その先進的研究拠点の形成に向けてリーダーシップを発揮することが期待される中核研究者であるRARAフェローを10名選定した。また将来のRARAフェロー候補となるRARAアソシエイトフェローも同時に10名選定し、研究者層の厚さを社会に示した。行動指針の一つに「共創」があり、多様な価値観や文化、習慣を尊重し、地域や国籍にとらわれない研究パートナーシップの構築を追求、そして他者に配慮した包括的なリーダーシップを発揮することが求められている。RARAフェローならびにRARAアソシエイトフェローには、このようなダイバーシティイズムも踏まえた、世界水準の研究・教育の展開を期待したい。(N)

編集室から

夏の頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。私ごとですが、つい先日学生時代の仲間たちと同窓会をしようかという話になりました。気づけば、「大学生だった自分の倍の人生を生きている」ということに驚きました。ずうずうしくも、ついこの前のように思い出す学生時代が懐かしいです。今の学生の方々は、このコロナ禍に見舞われた時代、そして世界の変化のタイミングで、何を思うのでしょうか。私たちが学生の時に考えていたことはきっと違うのだろうということだけは分かる。そう思えば、安易に自分の意見をぶつけることもできないなと思います。世代のバトンが丁寧に渡されていくことを願いながら、まずは自分自身を省みよう、夏越の大祓に足を運んだ2022年の夏でございます。(安井亜希)

半年ほど前に、諸事情で人生初の入院をしました。コロナ禍で面会謝絶の上、同じ境遇の患者さんとの交流が図れるかもしれないと考えてせっかく4人部屋に入ったにもかかわらず、感染防止対策で四六時中カーテンを閉めっぱなしで過ごすことに……。それでも約1カ月の入院生活でほとんど孤独を感じる事がなかったのは、看護師さんたちのおかげでした。回診は笑顔、ナースコールで呼ばれたらすぐに対応、忙しい合間を縫って、患者さんの質問にも丁寧に答える。看護師というはいかに人間力を問われる仕事だと感じしながら、自分も見習いたいと気が引き締まりました。この場を借りてコロナ禍で奮闘する医療従事者の方々に感謝をお伝えしたいです。(榎本暁子)

ここ数年は社会のありようとわれわれの生活にさまざまな変化がありました。それをきっかけに新しい考えや価値観が芽生えることはなかったでしょうか。コロナ禍においてはようやく制限がなくなり何事もなかったかのように過去と現在がつながったような生活を送っている方も多いと思います。私個人としては仕事一辺倒からプライベートとのバランスを取り戻す大切なきっかけとなりました。特に親や妻など近い人間関係の尊さを改めて感じたことを思い出し、今年は両親と兄弟と一緒に過ごす時間を作るため旅行をしました。平和な日常は素晴らしいことですが、コロナ禍で養った特別な感覚があれば思い出し、生かしてみたいかがでしょうか。(五嶋)